



(写真) Shutterstock “ベネズエラ人の情報入手手段に関するヒアリング調査の結果を紹介”

## ベネズエラ人の情報入手手段

株式会社ベネインベストメント  
松浦 健太郎

こ数年は、野党の選挙ボイコット戦略や選挙当局への不信感の高まりなどを理由にベネズエラの投票率は低迷しているが、歴史的にはベネズエラの投票率は高く、国民の政治に対する関心は日本よりも高いことは間違いない。

関心が高いということは積極的に情報収集を行う機会が多いことを意味する。ベネズエラ人はどのような手段で情報を入手しているのだろうか？

現地メディア「Ultimas Noticias」が行ったアンケート調査の結果を紹介したい。

## 電話で全国2000人超にヒアリング調査

最初に同アンケート調査に関する基本的な概要を紹介したい。

同調査は、現地メディア「Ultimas Noticias」が実施したアンケート調査で、調査期間は2024年11月25日～29日。

電話でのインタビュー形式の調査で、調査対象は18歳以上に限定されているが、その点を除いて性別・年齢層・居住地などベネズエラの人口分布(予想)に沿った形でヒアリングを実施している。

調査対象は、ベネズエラの全国2,026人を対象としている。

なお、「Ultimas Noticias」は、与党系のメディアと認識されているが、「日頃の情報の入手手段」という質問は政治的な質問ではない。

加えて、「Ultimas Noticias」が同メディアのウェブサイトを通じて行う調査の場合、購読者が与党支持者に偏る傾向があるが、今回の調査は電話でのヒアリング調査ということで調査対象の政治的な思想はバラバラになっていると思われる。

## 18～49歳 ソーシャルメディアを志向

最初の質問は「どのツールからニュースを最も受け取りますか?」というもの。

全年令を対象にした調査結果は以下の通り。

1. テレビ：34.6%
2. ソーシャルメディア：30.2%
3. メッセージアプリ：12.8%
4. ラジオ：12.4%
5. ニュースサイト：5.2%
6. 新聞：4.8%

なお、この結果は性別で分けても特段の差は生じなかった。

ただし、年齢で分けると結果には大きな特徴が出た（下表「年齢別の情報入手手段」参照）。

主な傾向は、「18歳～49歳の情報収集傾向は程度の差はあるが、そこまで大きく変わらない」という点である。

- 18～49歳のグループの主な情報入手手段は、
- 1位が「ソーシャルメディア」（約41%）
  - 2位は「テレビ」（約30%）
  - 3位が「メッセージアプリ」（約17%）
  - 4位が「ラジオ」（約8%）
  - 5位が「ニュースサイト」（約4%）
  - 6位が「新聞」（0%）

このグループをより細かく分析すると、年齢が若いほど「ソーシャルメディア」から情報を得る人が多い。また、年齢が上がるほど「ラジオ」から情報を得る人が多くなっている。

そして、18-49歳は「新聞」から情報を得る割合はゼロとなっているのは特筆すべき点だろう。

表： 年齢別の情報入手手段

(単位：%)

	合計	18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳超
テレビ	34.6	30.4	31.6	28.7	44.7	43.3
ソーシャルメディア	30.2	43.1	41.6	38.5	8.9	2.4
メッセージアプリ	12.8	17.4	16	18.3	4.9	1.5
ラジオ	12.4	5.7	7.3	10.7	18.4	27.6
ニュースサイト	5.2	3.5	3.6	3.8	14.5	3.6
新聞	4.8	0	0	0	8.6	21.5

(出所) Ultimas Noticiasより筆者作成

## 50歳以降 ソーシャルメディア利用が激減

情報入手手段の傾向は、50歳から大きく変わっている。

50歳以降の情報入手手段として最も多かったのは「テレビ」。平均で44%がテレビを通じて最も情報を入手している。

次いで、「ラジオ」が2番目の情報収集手段になる(平均23%)。

3番目は「50-59歳」が「ニュースサイト」で14.5%。「60歳超」は「新聞」で21.5%。

「ニュースサイト」に関して、他の年齢層は総じて約4%弱だが、「50-59歳」の層だけ14.5%と突出して高いことが分かる。また、「新聞」に関しては50歳超から閲覧割合が高くなる。

また、特筆すべき点は、50歳以降から「ソーシャルメディア」を通じて情報収集をする割合が急激に下がる点だ。

18歳~49歳のグループでは約40%を占めていた「ソーシャルメディア」が、50-59歳では8.9%、60歳超では2.4%まで低下している。

このような年齢による情報の入手手段の違いは、年齢によるベネズエラの現状認識に違いを生じさせる原因の1つになっていると想像している。

ソーシャルメディアは、基本的に自身の嗜好に合わせた情報が自動的に表示される仕組みになっている。

つまり、野党支持者のソーシャルメディアには野党系の主張する投稿が表示される。恐らく野党支持系のニュースを好んでクリックする人のソーシャルメディアに与党支持系の投稿が表示されることはないだろう。逆も然りで、与党支持者には与党支持系の投稿が表示されることになる。

他の媒体も似たような傾向はあるが、ソーシャルメディアについては特にその傾向が強く、偏った情報を浴びることになるので、極端な思想を形成しやすいツールと言えるだろう。

## Instagram、Facebook、TikTokが人気

次に「仮にソーシャルメディアを使用する場合、どの媒体を最も使用するか」の調査結果を確認し、ソーシャルメディアの中でも具体的にどの媒体を通じて情報を入手しているのかを確認してみたい。

結果は以下の通り。

性別による特筆するほどの違いはないようだ。

表： 情報入手手段として使用するソーシャルメディア (単位：%)

	合計	女性	男性
Instagram	25.1	25.2	25
Facebook	21.3	22.4	20.1
TikTok	19.9	18.8	21
その他	9.9	9.1	10.7
YouTube	8.7	9.6	7.8
ない	6.2	6.9	5.5
Telegram	5.7	4.9	6.4
X (旧Twitter)	3.3	3.2	3.5

(出所) Ultimas Noticiasより筆者作成

次に年齢別で分けると下表のような結果になる。

なお、この質問は「仮にソーシャルメディアを使用する場合、どの媒体を最も使用するか」という質問なので、先の「どのツールからニュースを最も受け取りますか？」という質問で、「ソーシャルメディア」を選ばなかった人も調査対象に含まれている。

年齢別で特徴を挙げると、「18-29 歳」は「TikTok」を利用する割合が他の年齢層よりも突出して高い。

また、「Instagram」は特に「30-49 歳」「60 歳超」のグループで利用する割合が高いようだ。

「Facebook」は、「18-29 歳」のグループで最も利用割合が高いが、全体でも 2 番に位置しており、安定して利用割合が高いと言える。

他、「X (旧 Twitter)」については、年齢問わず利用割合はかなり低い。以前ベネズエラは Twitter の利用割合は高い国だったが、この数年で状況は変わったようだ。

なお、マドゥロ政権は、X がマドゥロ政権に敵対的な米国実業家イーロン・マスク氏の会社になったことで、X には特に敵対的な対応を執っており、24 年 8 月にベネズエラ国内の使用を 10 日間禁止した（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1100」](#)）。

10 日後に使用禁止は解除されたが、マドゥロ政権関係者は 24 年 8 月以降、基本的に X の更新を停止しており、Instagram、Facebook、Telegram などを利用するケースが多い印象だ。

表： 情報収集手段として使用するソーシャルメディア (単位：%)

	合計	18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳超
Instagram	25.1	21.7	31.1	27.6	20.1	24.5
Facebook	21.3	27.3	19.1	18	21.7	17
TikTok	19.9	31.9	16.4	16.9	13.8	12.4
その他	9.9	1.9	9.1	8.5	17.1	19.7
YouTube	8.7	9.4	7.6	8.7	8.2	9.4
ない	6.2	0	6.4	10.4	10.9	7.9
Telegram	5.7	4.5	6.9	7.4	3.6	6.1
X (旧Twitter)	3.3	3.3	3.3	2.5	4.6	3

(出所) Ultimas Noticiasより筆者作成

上位 1 位～5 位まで色分けをしている。

1 位は緑色、2 位は水色、3 位は黄色、4 位は灰色、5 位はだいたい色

以上